

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年10月13日(火) No.31
文責：情野 夏美

伊藤先生！小研ありがとうございました！

算数のマイペース学習に挑戦する様子を参観させていただきました。全員が真剣に課題に向き合い、黙々と問題を解いたり、友達に聞き合ったりする姿が印象的でした。参観された先生方の感想をお伝えします。

3年1組 算数科 かけ算の筆算

視点1「自分で学びを進める子ども」について

- 教科書を見ながら、黙々と一人で進める子、自分なりの言葉の選択で、まとめを導きだそうとしている子が印象に残った。学習への意欲が感じられる場面だった。
- 黒板の前で取り組んでいた数名の発言やつぶやきが前向きで、先生と一緒に安心して進められる様子があった。
- 子ども一人一人に適した学び方ができる学習スタイルで良いと思った。上位の子も自分に合った学習ができていた。集中し、一生懸命課題に向かっている子が多く、一人一人のやる気が素晴らしかった。
- 先生と一緒に取り組めるコースや自分のペースで進めるコースを選べる良さを実感できる授業だった。
- 教師と一緒に学習するコースが、中学年にあっていてよいと思った。安心してできると思う。
- 開始5分で各自集中していて、学習に取り組んでいた。やり方を理解していて、困っている声は何も聞こえなかった。ロイロで答え合わせをしていたので、教室をうろうろすることがなく、スムーズだったと思う。
- 机の向きや人数など、自由でとても居心地がいのだろうと思った。自分で学びを勧められる子が多く、どんどんノートに書けていた。
- 言葉、記号、数字など、見通しを持たせてから授業に入っていて、イメージがしやすかったのではと思う。
- これまでの学習とロイロの計画があるので、すぐに学習に取り組むことができたのだと思う。
- 黒板を使って、いきいきと自分の考えを説明する姿が印象的だった。授業前から「早くやりたい」と言っている姿にも納得だった。
- ロイロにすることがまとまっていて、答えもあり、スムーズに学習を進めていた。
- 手引きがあることで、単元の見通しを持つことができていた。自力で進める手助けになっていた。
- 前時のノートなどを使いながら説明を考えたり、計算したりしていたため、既習を生かしながらの学習だった。
- 問→予想で見通しを持ち、めあてを立てて、説明を考え、大事なことをまとめる流れ（課題解決の道筋）ができていて、ていねいに進めていた。
- 友達と机を合わせるまでの経過が見られたら、さらによかった。そのメンバーで集まった意味やいきさつがあるのかが分かるので。
- 本単元における本時の位置づけはどこにあるのか。解き方の熟考、計算力アップ、考え方を深めるなど、見方・考え方を働かせられるような教師の声かけがあってもよかった。



視点2「課題や疑問を解決するために対話する子ども」 について

- 筆算のしかたやノートのとめ方等、隣の友達に確認しながら取り組む姿がたくさん見られた。友達のノートを丸写しするのではなく、会話で得たヒントを土台にして進める力が備わっていると感じた。
- 自分で考えたい子、人に教えて自分も理解を深める子、教えてもらいたい子、それぞれが自分で相談する人や相談のしかたを選んでいた。
- 黒板の前でやっていた子達が、お互いに教え合い、みんな「分かった!」となっていて、良い学び合いだったと感じた。
- 悩んだときにはすぐに聞くことができ、「前にやった方法使えるよね」と話しながらノートで確かめている姿も見られていた。
- 先生と一緒にチームは黒板を使いながら説明していたのでよく見え、他の人たちも参考にしているようで、グループがちがっても互いの考えを見ることができると思った。
- 必要な時に確かに助け合う時間が作られていた。対話が、説明を確かめ合うためのものになっていて、ゴールを全員で目指す姿がよかった。
- 言葉で、図で、数字でなど、様々な形で説明、表現していた。となりの子同士で伝え合う場面も見られた。
- 同じ場所にいる人とまとめや説明を考えたり、計算の答えを確認するなど、対話を通したりしながら学習を深めていく内容だった。
- 学びが活性化している子もいれば、止まっている子もいた。「一緒にやる」利点を活かせるよう、グループの作り方も考えていきたいと思った。
- 様々な表現があるからこそ、意図的に他グループと交流できる場面があってもよいのではないかと。そこから「100をこえても同じように計算できる」ことへ気づかせたい。
- お互いの書いた内容に着目することや、交流の視点を子ども達が知っていることで広がるものがあると感じた。



その他

- 自分事として問題に取り組む様子に、大きな成長を感じた。
- まとめを書いている姿を見て、自分の言葉を使って書くことを繰り返すことは、説明する力をつける上で、とても大切だと感じた。
- 「めあて」は、「～はどうやるのかな」で終わるよりも、「～はどうやるのか説明しよう」などの具体的な言い方が良いと思った。どのように理解するかを目指せるようなまえての時間の設定を考えていきたい。
- 同じ方法で考えた人たち同士の交流の場がどこかであると対話につながり、理解がさらに深まったのではないかと感じた。違う考えを伝えてもよかった。
- 42×3 の筆算を実際に解き進めるときに違った手順で解いている子もいたので指導が必要。ノートのマスの目の使い方も。
- ノートの使い方が、自分のやり方に合わせて各々異なっていたが、これまでどのように指導してきたのか知りたい。

【伊藤井先生の授業から学ばせていただいたこと】

- ・学習の流れや、やり方がわかる教材（ロイロ）
- ・じっくり課題に向き合える教室の安心感
- ・先生と学習するコースの設定により、選択している子もしていない子も学習のポイントが分かる。